

大阪の住民の いのちと暮らし、産業を支える水

大阪広域水道企業団は、淀川の水から水道水を製造し、大阪府内の42市町村に供給している水道インフラ事業者です。

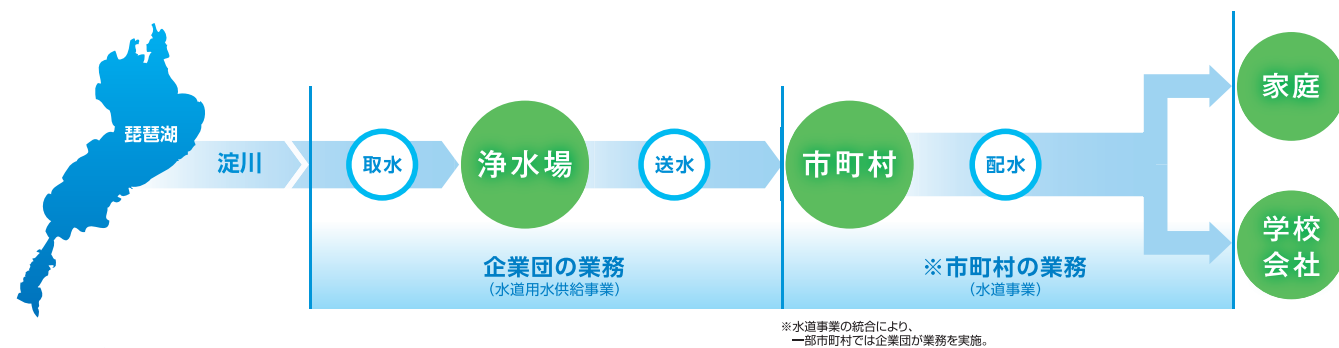
府域全体(大阪市を除く。)で1年間に使用される水道水の約76%を供給しています。

平成29年4月から、一部市町村と水道事業の統合を実施しており、各家庭や学校などに、企業団が直接、水道水をお届けしています。

また、工業用水を製造し、府内の工場などの事業所に直接供給しています。

大阪広域水道企業団では、いつでも安全で品質の高い水をお届けできるよう、水処理技術の向上や災害に強い水道づくりに取り組んでいます。

水道水が届くまで



日本最大規模の水道企業団

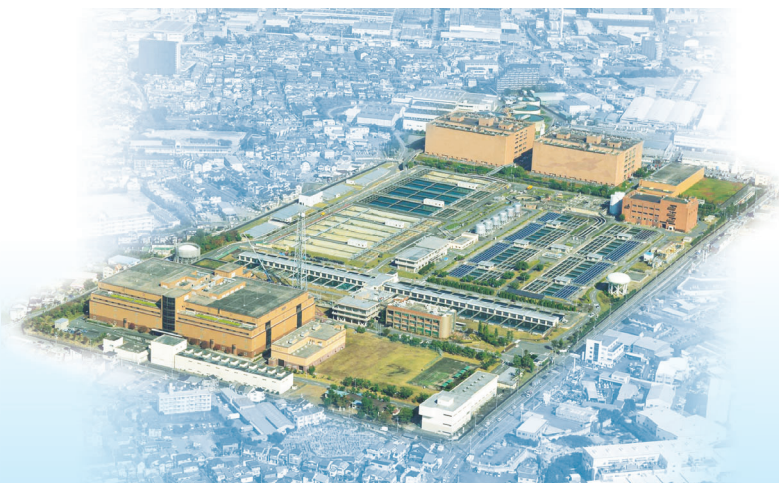
- 企業団は、複数の地方公共団体が、行政サービスなどの一部を共同で行うことを目的として設置する一部事務組合(特別地方公共団体)であり、大阪府内42市町村により構成されています。
- 送水量や構成団体数で**日本最大規模**の水道企業団です。
- 前身は大阪府水道部(府営水道)で、職員は**地方公務員**です。



シールド工法による大容量送水管の整備(鋳鉄管の配管)



災害に対する安全性の強化のためのバイパス配水管の整備(立坑の築造)



日本最大級(世界でも有数)の処理能力をもつ村野浄水場

大阪広域水道企業団理念

人と技術でつながる 広がる 水の未来

水道事業の将来を担う「広域化」の原動力

人口減少、水道施設の老朽化など、水道事業の変化や課題に対応し、水道を次世代に引き継いでいくため、企業団が中心となり、水道事業の効率化や運営基盤の強化につながる「広域化」を推進し、大阪府内の全ての市町村水道事業との統合(府域一水道)をめざしています。

市町村水道事業の統合により業務のフィールドを拡大

府内の市町村水道への水道水の供給(卸売)に加え、平成29年4月からは四條畷市・太子町・千早赤阪村、平成31年4月からは泉南市・阪南市・豊能町・忠岡町・田尻町・岬町、令和3年4月からは藤井寺市・大阪狭山市・熊取町・河南町の家庭などに、企業団が直接、水道水をお届けしています。これからも市町村水道事業との連携拡大や統合を進めていく予定であり、企業団の業務のフィールドはますます広がる見込みです。

技術交流・緊急援助などの「国際貢献」

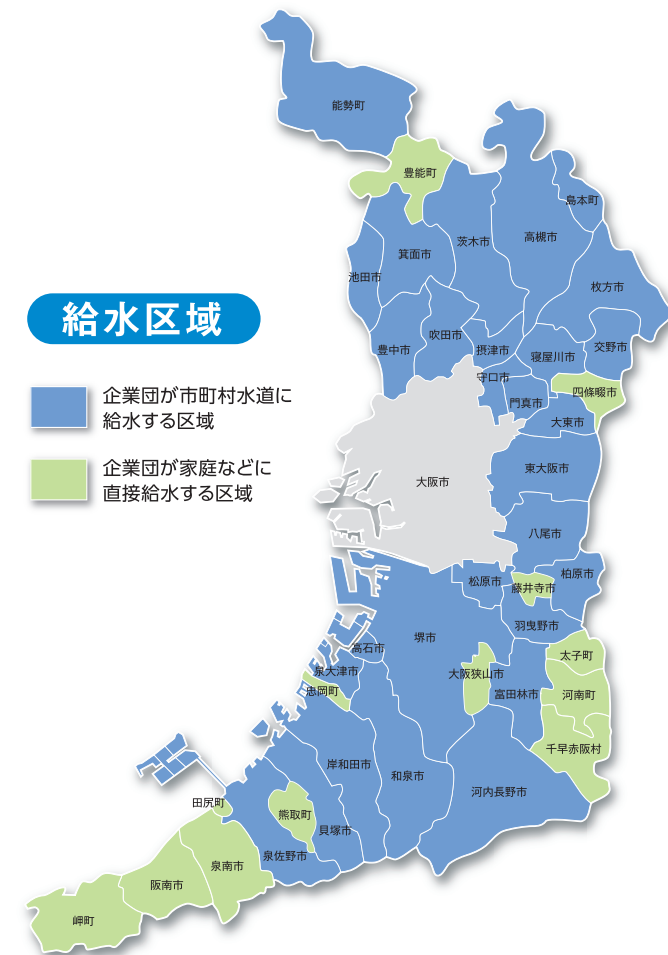
世界に安全な水が飲める環境を広めるため、東南アジアを中心に職員を派遣し、技術支援を行ってきました。タイ王国首都圏水道公社(MWA)と技術交流に関する覚書を締結し、企業団から職員の派遣やタイ王国から研修員の受け入れを行っています。海外での災害発生時には、国等から要請を受け、被災地に職員を派遣しています。



タイMWA技術交流研修

給水区域

- 企業団が市町村水道に給水する区域
- 企業団が家庭などに直接給水する区域



府域の水道事業をけん引する「高い技術力」

技術研究発表会の開催、日本水道協会の水道研究発表会や国際シンポジウムでの発表など、日々研さんした技術・研究の成果を積極的に関係団体と共有し、水道技術をさらに高めるための取組を行っています。



企業団主催の技術研究発表会